

事務事業名		美術館展覧会開催事業					評価区分(事前評価・事後評価)			事後評価(A・B表)		
政策体系	基本目標	4 豊かな心を育む教育・文化づくり					事業区分	担当組織	担当部	教育総務部	担当課	吉澤記念美術館
	政策	2 生涯にわたり学びのあるまちづくり						新規事業・継続事業	継続事業			
	施策	2 歴史・文化資源の継承と芸術・文化活動の推進						実施計画事業・一般事業	実施計画事業			
	基本事業	3 文化・芸術に触れる機会の充実						市単独事業・国県補助事業	市単独事業			
予算科目	短縮コード	会計	款	項	目	予算細事業名	任意的事業・義務的事業	任意的事業				
	14966	一般	10	4	7	美術館展覧会開催事業	実施方法	直営				
事業計画	単年度繰り返し	事業期間	H14年度～ 年度		根拠法令 条例等	博物館法 佐野市立美術館条例	事業分類	その他市民に対する事業				
							リーディングプロジェクト	該当				
							市長マニフェスト	該当なし				

1. 事務事業の現状把握【DO】

(1) 事務事業の手段・目的・結果・各指標

① 手段(事務事業の主な活動内容を記入します。)										
事業概要(具体的な事務事業の活動内容・進め方)			平成26年度実績(平成26年度に行った主な活動内容)							
芸術に触れる機会の充実を図り、美術への関心を深めてもらうため、所蔵企画展や特別企画展を開催する。また、地域交流センターでの自主事業を実施する。 ・年4回の企画展の実施・地域交流センターでの自主事業の実施			①企画展の開催 所蔵企画展3回 「寺崎広業展」「吉澤コレクションの鳥」「花華コレクション2015」 特別企画展1回 「おかえりなさい、伊藤若冲《菜蟲譜》光学調査・修理完了報告展」 ②地域交流センターでの自主事業の実施 小中学生絵画作品展 《菜蟲譜》パネル展示							
			活動指標	単位	25年度(実績)	26年度(実績)	27年度(見込)	28年度(見込)	29年度(見込)	
所蔵企画展の開催数			回	3	2	2	2	2	2	
特別企画展の開催数			回	2	2	2	2	2	2	
② 対象(この事務事業は誰・何を対象としていますか?)										
・市民 ・美術愛好者			対象指標	単位	25年度(実績)	26年度(実績)	27年度(見込)	28年度(見込)	29年度(見込)	
佐野市の人口			人	123,182	122,582	121,522				
北関東地方(3県)の人口			人	6,984,699	6,894,460	6,840,000				
③ 意図(この事務事業によって、対象をどのような状態にしたいのですか?)										
目的 展覧会を観覧して満足してもらい、美術への関心を深めてもらう。			成果指標	単位	25年度(実績)	26年度(実績)	27年度(目標)	28年度(目標)	29年度(目標)	
「見て満足した」と答えた入場者(アンケート回答より)			%	69.7	74.8	80.0	80.0	80.0		
美術館企画展観覧者数			人	6,319	10,763	7,500	7,550	7,600		
④ 結果(どのような結果に結びつきますか?)										
展覧会開催や解説・図録の発行等とおして、文化・芸術に触れる機会の充実を図る。			上位成果指標	単位	25年度(実績)	26年度(実績)	27年度(目標)	28年度(目標)	29年度(目標)	
佐野市の歴史と伝統を知っている市民の割合			%	91.6	93.1	93.5	94.0	94.5		

事業費	財源内訳	単位	25年度(実績)		26年度(実績)		27年度(目標)		28年度(目標)		29年度(目標)	
			項目	事業費	項目	事業費	項目	事業費	項目	事業費	項目	事業費
投入量	国庫支出金	千円										
	県支出金	千円										
	地方債	千円										
	その他	千円		771								
	一般財源	千円	2,700	2,453	3,192	3,260	3,260					
	事業費計(A)	千円	2,700	3,224	3,192	3,260	3,260					
	事業費の内訳	報償金	千円	0	0	10	40	40				
		普通旅費	千円	5	5	9	15	15				
		消耗品費	千円	103	108	105	110	110				
		通信運搬費	千円	149	340	750	750	750				
損害保険料		千円	3	3	100	100	100					
業務委託料		千円	291	288	360	360	360					
作成委託料		千円	2,106	2,479	1,828	1,845	1,845					
使用料		千円	43	9	30	40	40					
人件費	人	4	4	4	4	4						
のべ業務時間	時間	1,320	1,320	1,320	1,320	1,320						
人件費計(B)	千円	5,136	5,202	5,202	5,202	5,202						
トータルコスト(A)+(B)	千円	7,836	8,426	8,394	8,462	8,462						

事務事業名	美術館展覧会開催事業	担当部	教育総務部	担当課	吉澤記念美術館	担当係	
-------	------------	-----	-------	-----	---------	-----	--

(3) 事務事業を取り巻く環境変化・市民の意見等

①この事務事業は、いつ頃、どのようなきっかけで開始しましたか？	平成14年6月の美術館開館に伴い開始した。
②事務事業を取り巻く環境(対象者や国・県などの法令等、社会情勢など)は事務事業の開始時期や合併前と比べてどのように変化していますか？	市庁舎等の建設により、市の財政状況は一層厳しさが増しているため、事業費削減に努めている。
③この事務事業に対して、関係者(市民、議会、事務事業対象者)からどのような意見・要望がありますか？	運営協議会委員や来館者から、「作品解説のレベルが高い」「わかりやすい」との感想があった。入館者アンケートでは、「作品数に比して観覧料が高い。物足りない。」という意見がある一方、「ちょうど良い作品数で、ゆっくり鑑賞できる。」という両方の意見があった。佐野市に関する作家や作品の展示を希望する声もある。

(4) 前年度の評価結果に対する改革・改善の取組

前年度の評価結果	評価結果を受けて行った具体的な改革・改善の取組
事業のやり方改善(成果向上の見直し)	当館の代表的所蔵品である伊藤若冲《葉蟲譜》の、解体修理後初のお披露目展を開催した。展覧会にあわせて、図録も作成した。折からの若冲ブームに乗って、大好評であった。

2. 事務事業の事後評価【Check】

目的 妥当性 評価	①政策体系との整合性 この事務事業の目的(対象・意図)は、政策体系(結果)に結びついていますか？	結びついている	理由・改善案	企画展開催による美術に親しむ機会の提供は、美術に関する市民の知識と教養の向上と地域社会の文化振興に寄与することを目的とする佐野市立美術館条例の趣旨に沿うものであり、政策体系に結びついている。
	②公共関与の妥当性 なぜこの事務事業を市が行わなければならないのですか？ 民間やNPO、市民団体などに委ねることはできませんか？	市が行わなければならない	理由・改善案	実利を目的とする指定管理者制度では、すぐれた作品を鑑賞・発表する機会を提供し、地域社会の文化振興に寄与するという美術館の役割を果たすことは難しいと思われる。また、市が直接管理運営することにより、収益性の低い調査研究事業や地元作家の企画展等も、目先の利益にとらわれず、継続的に取り組むことができる。
	③対象・意図の妥当性 事務事業の現状や成果から考えて、対象と意図を見直す必要がありますか？	妥当である	理由・改善案	美術館の優れた所蔵作品等を展示し、作品にふれる機会を提供することは、今後ますます地域に開かれ、人々が集い、親しまれる美術館の構築を目指す点からも妥当である。又、生きがいや生きる目的を見失いがちな現代人にとって、癒しの力を持つ芸術を扱う美術館の存在は、今後ますます重要になってくると思われる。
有効性 評価	④事務事業の成果向上余地 事務事業の成果は出ていますか？ 事務事業のやり方・進め方を見直すことで成果を向上させることができますか？	成果向上余地がある程度ある	理由・改善案	所蔵企画展に加え、特別企画展の開催や、他館からの作品借入も視野に入れての展覧会を構成することにより、観覧者の心に残る展覧会を提供し、入館者の増加につなげることは可能だと考えられる。また、観覧者のうち市外からの観光客の割合が高いため、佐野市民の観覧者が増えるよう、周知を図りたい。
	⑤類似事務事業との統合・連携の可能性 類似の目的や活動形態を持つ他の事務事業がありますか？ ある場合は、その事務事業との統合・連携ができますか？	類似事務事業はない	類似事務事業名	
	*類似事務事業があれば、名称を記入	理由・改善案		
効率性 評価	⑥事業費・人件費の削減余地 事務事業の成果を低下させずに事業費・人件費を削減することができますか？	削減の余地はない	理由・改善案	連年のコスト削減により、必要最小限の事業費で実施している。また、年6回実施していた企画展を平成22年度からは年5回に、平成26年度からは年4回に減らしている。これ以上の展覧会回数の減は、美術館としての魅力を落とし、入場者数の減少につながるおそれ大きい。
	⑦受益者負担の適正化余地 この事務事業の受益者は誰ですか？事務事業の目的や成果から考えて受益者負担を見直す必要がありますか？	現在の受益者負担は適正である	理由・改善案	入館者は市内外に及んでおり、観覧料を徴収することは適正である。また、平成24年度からは、大学生以下と身体障がい者等については無料化を図っており、観覧の機会を広げている。
総合 評価	⑧本事業の休止・終了条件(本事業はどんな状態になれば休止・廃止、事業終了となるか?)			
本事業は、美術館運営の中核を成す事業である。本事業を休止・終了することは美術館の存続にかかわる事であり、休止・終了はできない。				

3. 評価結果の総括と今後の方向性【Action】

(1) 今後の事務事業の方向性	(2) 改革・改善による期待効果	(3) 改革・改善を実現するうえで解決すべき課題(壁)とその解決策																							
事業のやり方改善(成果向上の見直し) * 評価結果に基づいた改革改善案を記入します。(複数ある場合は、①②・・・と記入します。現状維持の場合は記入しません。) ①特別企画展の開催 ②他館からの作品借入も視野に入れる。	廃止・休止の場合は、記入不要 ×の領域は改革改善ではない。 <table border="1" style="margin-left: 20px;"> <tr> <td colspan="2"></td> <th colspan="3">コスト</th> </tr> <tr> <td colspan="2"></td> <th>削減</th> <th>維持</th> <th>増加</th> </tr> <tr> <th rowspan="3">成果</th> <th>向上</th> <td></td> <td>①②</td> <td></td> </tr> <tr> <th>維持</th> <td></td> <td></td> <td>×</td> </tr> <tr> <th>低下</th> <td></td> <td>×</td> <td>×</td> </tr> </table>			コスト					削減	維持	増加	成果	向上		①②		維持			×	低下		×	×	・他館からの借入及び当館所蔵作品の貸出の際は、関係者と十分な協議を行う。
		コスト																							
		削減	維持	増加																					
成果	向上		①②																						
	維持			×																					
	低下		×	×																					